


## 痲癢がある児童に関する事例

事 例	自分の思い通りにならないときに大きな声を出して教室を飛び出す児童への指導	
児童生徒 について	学部等	小学部
	障がい名等	知的障がい、自閉症
	生徒の主な 実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師や友達と言葉を使ってやりとりができる。</li> <li>・ 100まで数を数えたり自分の作りたいものをイメージして制作したりする。</li> <li>・ 運動や作るものが決まっている制作活動に苦手意識があり、自分の思ったようにできない時に大きな声を出して教室を飛び出すことがある。</li> </ul>
行動の見方 ・ 考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理想と自分の実態との間に差があり、できないかもしれないと思った時に強い不安を感じている。</li> <li>・ 気持ちや状態を表す言葉が未学習のため自分の状態が理解、整理できない。</li> <li>・ 泣いたり大声を出したりすることで自分の気持ちを調整、表出している。</li> <li>・ 自己肯定感が下がり、学習や生活に対する自信や意欲が低下している。</li> </ul>	
支 援 の 実 際 や 変 容 など	<p>①不安を感じている状況や気持ちの言葉を推察して、児童の不安を言葉で整理する。</p> <p style="padding-left: 20px;">＜月曜日の朝の場面＞T：「月曜日だから気持ちが乗らないよね。朝早いから少し疲れているんだね。泣いても伝わらないけど、お話すれば先生もわかるよ。言葉が分からない時は先生手伝って、って伝えてね。」</p> <p>②教師が受け止めることを繰り返し、安心できる信頼関係を作る。「少しだけがんばってみよう」と思う気持ちを引き出す。</p> <p style="padding-left: 20px;">＜給食の場面＞</p> <p style="padding-left: 40px;">（4月）児童A：「むりむり。野菜なんて絶対に食べられない。牛乳も無理。」</p> <p style="padding-left: 40px;">T：その日、絶対に食べられる量に給食を調整する。牛乳は1日一口ずつ増やしていく</p> <p style="padding-left: 40px;">「お肉と一緒に食べられたね。すごい、がんばって1口飲めたね！」</p> <p style="padding-left: 40px;">（6月下旬）児童A：「先生、今日は200口飲むから見ててね。」</p> <p>③本人ががんばったこと、できたと感じていることを具体的な言葉で称賛する。</p> <p style="padding-left: 20px;">できた経験やがんばったことを自分で振り返られるシートを作る。</p> <p style="padding-left: 20px;">＜給食の場面＞完食できたらシートに好きなキャラクターのシールを貼る。</p> <p style="padding-left: 20px;">家に持ち帰り、両親にも褒めてもらえるようにする。野菜の量が多い日には、児童が食べられる分に調整し、完食できることを目指していく。食べられなかった日は児童もできなかったと分かっているため、「残念だけど、よくがんばったね。明日またシール貼ろうね。」と言葉をかけて、片付けるように促す。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>～児童の変容～</p> <p style="padding-left: 20px;">落ち着いて生活できる日が増え、学習に対してやってみようとする気持ちが見られてきた。痲癢を起す前に「先生疲れたよ。手伝って。」と言葉で伝えることが増えた。</p>	

